

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0690800362		
法人名	庄内みどり農業協同組合		
事業所名	グループホーム結い		
所在地	山形県酒田市千日町4-4		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 12 日	開設年月日	平成 30 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30 年 12 月 5 日	評価結果決定日	平成 30 年 12 月 20 日

(グループホーム結い)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に位置し、施設内には30畳ほどの交流スペースがあります。そこで、年金友の会やJA主催の「てんとうムシ教室」(転倒予防教室)などが開催され、組合員や地域住民の方々の出入りもあり、入居者様も参加されるなど、生活にはとても良い刺激となっています。また、歩いて2〜3分のところに「青麻神社」や自治会館があり、地域の夏祭りなどに参加しながら地域住民との顔が見える生活環境を心がけています。「家族会」には地域の自治会長、民生委員の方からもご参加頂き、交流を行っております。日々の活動として、毎日の体操は勿論、日常の家事、レクリエーション、外出、ボランティアの方の来所など、生活に楽しみを提案し、生きがいを感じながら、認知症の進行を緩和し、安心して生活できるよう、心温かい支援を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8か月ながら地域に密着した活動や交流が積極的に行われ、利用者の暮らしにも楽しみ事や生きがいとなって反映されグループホームならではの取り組みが実践されています。食材の買い物から調理、盛り付け、後片付けまで利用者と職員が一緒に行い、皆で和気あいあいとした毎日を送っています。また家族等とは食事を共にした交流会で信頼関係を深めながら情報の共有に努めています。職員は「日頃から心がける10か条」を念頭に認知症を理解し少しの変化にも気を配りながら寄り添うケアを心がけ、「我が家」「尊厳の尊重」「安全・安心」「生きがい」をコンセプトにして日々取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念」を事務所に掲示し、職員がいつでも確認、認識ができるようにしている。開設して7カ月、管理者も職員と同じ勤務、シフトに入り、業務内容を確認、把握し、職員との方向性の統一性を図りながら理念の実践に心がけている。	地域密着に基づいた理念と4つのコンセプト「我が家」「尊厳の尊重」「安全・安心」「生きがい」を掲げ、「日頃から心がける10か条」を心に留め、会議等で振り返りながら実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の催し物の中で可能と思われるイベント等に参加している。近所の方の犬の散歩の時は、立ち寄ってもらい地域住民との交流もある。	事業所内の交流スペースを活かした様々な活動(てんとうムシ教室や津軽三味線ライブ等)では利用者と地域の方が一緒に楽しみ、地域行事にも積極的に出向いて利用者参加型の交流が刺激ある暮らしとなって喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、施設内での催し物(ボランティア来所)に地域の方も招いて、入居者と触れ合いながら認知症を理解し、温かい眼差しで受け止めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に1回運営推進会議を開催し、入居者家族様、自治会長、民生委員、行政・地域包括職員などから出席いただき、事業所の運営状況や入居者の様子を報告するとともに、多様な情報交換の場となっており、頂いたご意見をサービス向上に繋げている。	会議では交流スペースの活用や地域行事の案内、「結いからのお便り」などの情報をもとに活発な意見交換が行われている。行事の際に事業所見学を取り入れるなど会議での意見を反映した取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員から出席いただき現状を報告するとともに、運営に際して不明の点は電話等でアドバイスを頂いている。市からはメールや文書等で情報を得ている。	行政とは運営推進会議等で情報を共有し、ボランティアの積極的な受け入れに評価を得て事業所からその取り組み方を提供し、地域包括支援センターからは認知症サポート養成講座の提案をもらうなど良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	虐待防止法について学習し、全職員に周知徹底している。また、入居の際、ベッド柵の使用について、ご家族様に説明し、ご理解をいただいて使用している。他に「帰宅願望」も含め、外出や散歩を希望する時などは玄関に施錠することなく、見守り、声掛けで職員と一緒に寄り添っている。できるだけ、入居者の希望に添うように身体拘束のない生活、安心できるケアに取り組んでいる。	「日頃から心がける10か条」には接遇の基本となる声掛けの仕方や接し方などが示されており、身体の拘束は元より言葉の拘束にも気を付けている。また防犯カメラの設置や職員間の連携した見守りで安全で自由な暮らしを支えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の具体的な行為はもとより、言葉使いひとつからも虐待に繋がることを念頭に置き、一人の人として尊重することを心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している入居者はいないが、今後、施設内研修や勉強会、外部研修への参加の機会を持ち受講したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設を見学していただき、契約書には書面を用いて、ご家族様に丁寧な説明を行い、同意を得て、ご理解頂いてから署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が自身の思いを気軽に話せる温かい雰囲気作りに努め、傾聴することを心がけている。ご家族様が来所時には、入居者の生活・健康状況を報告するとともに、ご家族様の要望などを伺っている。	利用者の「おいしい物が食べたい、外に出かけたい」等の要望には可能な限り応えている。また家族交流会を設け孟宗汁や芋煮の食事会で楽しみ、意見・要望は申し送りノートや業務日誌などで共有し速やかな対応に努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、気づいたことを月に一度の職員会議で職員の意見を聞く機会を設けている。意見や提案内容をその後の支援方法や業務改善等に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の職員会議を意見交換の場としてとらえ、運営者も出席し各職員の思いを聞いている。年間休日は125日で、有給休暇の取得や希望休をシフトに反映し、就業環境の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や他事業所が開催する研修会を職員に周知し、参加しやすい勤務体制を構築するとともに積極的な参加を促している。また、伝達講習などで他職員に周知し全職員の知識向上に努めている。	開設時より経験豊富な職員に恵まれており開設前に研修を行いケアの再確認をしている。また外部研修参加後は伝達講習で緊急時対応や感染症対策等の内部研修を行い更なるスキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の情報により行われる研修会に参加し、その場で情報交換したり、その内容を施設に持ち帰り、職員会議で話し合い、サービスの質の向上に繋がられるようにしている。	開設準備にあたり他グループホームを見学し、外部研修などで同業者との交流を図りながら情報を得てサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	外部研修に限らずネットワーク等への参加や職員の相互訪問などで同業者との交流の場を広げ、活動やケアに活かしていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実地調査や前ケアマネからアセスメントを実施するとともに、本人の困っていること、要望に対して、ご家族様と一緒にどのようなサービス提供をしていくのかを考え、安心して入居して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を前提として話を進めるのではなく、ご家族様の不安や悩みに耳を傾け、信頼関係が築けるように努めている。また、必要に応じて定期受診時の付き添いなど、他のサービス(有償サービス)などを紹介している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に本人、ご家族様と面談を行い、要望を伺い、前ケアマネや病院の相談員と情報交換を行いながら、必要なサービスを見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見極めながら声掛けし、調理や盛り付け、配膳、後片付け、洗濯物干し・畳み、居室の掃除などをお手伝い頂いている。こうした日常生活の活動を通して、家庭的な雰囲気を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の生活状況を報告するとともに、行事やボランティア来所の時は参加頂けるように声掛けしている。毎月、広報を配布し、施設での暮らしぶりや近況報告を行っている。広報には担当職員からのメッセージを載せて親しみを図っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や身内の方の面会も気楽に立ち寄れる雰囲気作りを心がけている。ご家族様の協力の下、外出や外泊など気分転換になれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けし、入居者間で孤立しないようにレクリエーションや行事を通して、お互いが関わり合える機会が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設してから退居者はいないが、今後に備えて相談、援助など気持ちよく関わられるよう信頼関係を築けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動などから本人の思いや意向を汲み取ったり、仕草や表情から感じ取ったりしているが、困難な場合は、ご家族様に連絡し、ご協力をいただいている。	利用者の些細な変化に目を配り、元気がない時は寄り添って声掛けや傾聴に心がけ思いや意向の把握に努めている。利用者がどうしたいか不安に思っていることを解決し、職員間で共有しながらその方に合ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談やご家族様の面会時に、生活歴や生活環境などを伺える範囲で情報収集するように努めている。また、それを職員間でも共有し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化に注意し、早期発見できるように日頃から一人ひとりの状態をケース記録や申し送りノートを活用しながら、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少なくとも1ヶ月に1回、あるいは気になる時、その都度入居者の状況を話し合っている。それに基づいて介護計画の見直しを行い、ケアの統一に努めている。	家族等から得た情報と事業所でのケアチェック表をもとに、心理面でも健康面でも不安なく過ごせるように利用者や家族、居室担当者や他職員の意見を反映したプランの作成に努めている。また会議時に検討会を行い現状に即した見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に生活の様子やケアの内容、状態変化などを記入している。申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにいつでも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地域の夏祭りや市内の行事に参加している。自治会長や民生委員からも地域の情報を頂いている。月に1～2回ボランティアの方に来所していただき、生活に変化と楽しみを持てるように支援している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の協力の下、月1回の定期受診を継続し、その定期受診の時には、日頃のバイタルや様子を文書にして情報を提供している。体調が優れず、早急に受診が必要と思われる時にはご家族に連絡し、施設でかかりつけ医の受診を行えるように努めている。	従来のかかりつけ医を家族の付き添いで受診し、情報提供や結果の共有で医師との連携を図っている。気づきや声掛けを大事にして利用者の体調変化や行動に注意し早めの受診を心がけている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、同法人デイサービス所属の常勤看護師が来所し、健康相談や健康チェック、健康指導を受けている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院された入居者はいないが、入院された時には速やかに病院の相談員と連携を取り、主治医や病棟看護師と情報交換をし、早期退院に向け話し合いをしていきたいと考えている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期について施設の方針を説明している。できるだけ早めに本人の状況変化を報告し、主治医と連携を図りながら、職員や場合によっては看護師も交えてご家族様と話し合い、相談に応じられるように努めたい。	事業所では入浴の際、立位が困難になった時や状況変化があった場合には家族と話し合い、主治医・看護師と連携を取りながら今後の方針の統一を図っている。職員は全員救命講習を受講し、安心安全に過ごせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは作成しているが、それ添った行動や定期的な研修会などは行っていないため、いざという時の不安感はある。今後は研修会への参加の機会を増やし、実践力を身につける必要がある。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設の防災計画に基づいて、総合防災訓練を行っている。総合防災訓練では、荘内防災や消防署職員の指導を仰いでいる。今後は自治会長、民生委員と連携しながら、地域の自主防災組織に働きかけ、地域住民の参加も取り入れて計画していきたい。	防災訓練は声掛けを大事にしながら利用者も一緒に実施し、慌てず的確に避難できるように火災時の訓練を行っている。日頃から誘導の妨げにならないよう動線の確保に努めている。	災害時における近所の方の協力要請と食糧等の備蓄や非常時の持ち出し(利用者の情報等)などの整備に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬意を払いながら対応し、声掛けしている。自尊心や羞恥心に配慮し、入居者の立場に立って言葉使いにも留意している。また、プライバシーの保護や個人情報の管理にも周知徹底している。	居室に入るときやトイレ、入浴の際はひと声掛けるなどプライバシーの配慮に心がけている。本人の気持ちを大事にし、大きな声を出さない、後ろから声を掛けないなど、言葉遣いや接し方に注意している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して無理強いせず、ご本人の意思や希望を尊重するように努めている。また、非言語コミュニケーションを意識し、表情などから、思いを汲み取るように心がけている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその起床時間や食事の時間、入浴日の決まりはあるが、一人ひとりのペースを大切に、食事の時間や起床時間をずらしたり、入浴日も変更している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はできるだけ、入居者本人に選んで頂いている。ただ、不安な方には声掛けをしている。また、月に1回、訪問理容にて好みの髪形、女性は基礎化粧品でおしゃれを楽しむように支援している。男性は毎日の髭剃りで身だしなみに気を付けている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎日3食手作りしている。その為、週3回、入居者と一緒に食材の買い物に外出し、調理、盛り付け、片づけ等を行って頂いている。献立はできるだけ季節に合ったメニューや郷土料理を取り入れながら、季節感を味わって頂いている。	職員が交替で献立を作成し、食材は利用者と一緒に買い出しに行き3食皆で調理している。食前に手作り酢を飲み健康にも留意しながら食事を楽しんでいる。誕生会ではケーキに自分でデコレーションをしたり、芋煮、雑煮、年越しそばなど季節の行事食も楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は形状や量など個人の希望に合わせて提供している。水分量に関しても、好みのものを提供し、入浴後は必ず水分補給をおこなっている。日々の水分量に配慮し、食事と一緒に一日の水分摂取量を記録している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛けし、毎食後の義歯洗浄、歯磨きなど、その方にあった口腔ケアを自身が行っている。自身で不十分な方には職員が見守りで声掛けしている。今後は協力歯科医、歯科衛生士から口腔ケアのアドバイスを頂きたいと考えている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立以外の方には定期的に声掛けし、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄に努めている。下衣の上げ下げは見守りの下、出来ないところを支援している。	自立の方も多く、時間に合わせてさりげなく声掛けを行いトイレでの自立排泄につなげている。排泄、バイタル(血圧・体温など)、服薬、食事などの各チェック表を作成し健康管理に努めながら支援している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には水分を多く勧めたり、牛乳を提供している。毎日の体操、下肢運動をすすめている。日々の排便状況を把握し、必要に応じてかかりつけ医と相談しながら薬を処方して頂いている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を基本的には決めているが、その時々々の状況を最優先し、本人の希望に添うように努め、入浴を楽しんで頂いている。	一人ひとりゆっくりと希望に沿った入浴をしており、利用者からは好評を得ている。入浴拒否の方にはお風呂とは言わないで、職員を変えたり、体重測定しますなど声掛けに工夫して、清潔に過ごせるよう支援をしている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めていないが、他入居者の入眠に配慮し20時頃、ホールの消灯やTVの音量を下げるなどしている。一人一人の生活ペースで休んで頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行っており、服薬内容については各職員が理解している。不明な点や状態変化が見られた時は、薬剤師に相談している。また、誤薬や飲み忘れの無いように服薬チェック表をつくり、2人以上で確認をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物干し・畳み、食事作りの手伝い、後片付けなど、日常の生活の中で役割ができていられる。また、外出ドライブや天気の良い日には散歩、買い物などで気分転換ができるように支援を行っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、本人の体調や希望を伺い、個人の必要な物の買い物などを車で出かけて支援を行っている。また、ご家族様の協力により一緒に外出する機会を作っている。	日常的には食材の買い出しに職員と一緒に利用者也交替で出かけ、天気の良い日は駐車場にテーブルを並べお茶会を楽しんでいる。また、花見や紅葉狩りなどドライブ外出もあり季節を感じてもらいながら気分転換を図っている。その際の外食も楽しみの一つとなっている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向を尊重し、ご家族様と相談の上、「預り金」の上限を設けて、本人が自由に使えるお金を施設で管理させていただいている。本人が必要なものは買い物同行し、支払いは自身で行っている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があるときはこちらから入電し、あるいはご家族様からご連絡を頂くなど、会話ができる体制にしている。今後、希望する入居者には手紙や年賀状のやり取りもできるよう支援していきたいと考えている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリー仕様で明るい空間になっている。フロアや浴室、トイレも毎日掃除をし清潔を保っている。また、廊下が回廊式になっており、歩行練習などに良い空間となっている。今後は季節の花を飾ったり、装飾品で共有スペースを工夫したいと考えている。	クリスマスツリーやボランティアと共に作成した絵手紙などをホールに飾って、お茶や食事のときの話題となり、楽しい雰囲気となっている。ホールに畳のスペースがあり、利用者はこたつで足を伸ばしてお茶を飲みながら皆で会話を楽しみ、ソファに座ってのんびりゆとりと過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大型テレビを置き、音が聞き取りにくい入居者に配慮し、スピーカーを聞き取りやすいように設置している。各々、新聞や本を見たり、ソファや畳スペースで寛いでいる。気の合う入居者同士で過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやチェストは既に設置しているので、寝具類は好みのものを持参していただいている、必要に応じて居室にテレビの持込も可能としている。居室にはご家族様の写真や愛着のあるものを飾ったりして、心地よく暮らせるように支援している。	居室は備え付けのベッド、チェスト、洗面台があり広めのクローゼットでゆったりとしている。扉の開け閉めで睡眠を妨げることがないように居室の入り口側に足を、また枕元を向こう側にして顔がすぐに見えるようにベッドを配置し利用者が安全に過ごせるように配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置、居室入口には名前や好きな動物の写真、目印を飾っている。トイレは分かりやすいようにトイレの絵や表示を貼り、目で見て認識できるように配慮している。		